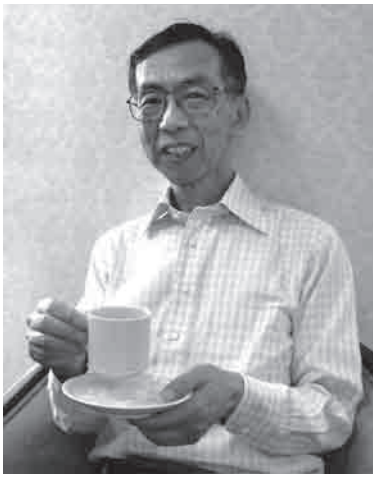

私の趣味・器・青白磁

会員　原田 敬三（20 期）

私の趣味は本当はドライブだ，ただ目的もなく車を走らせてもしょうがない，そこでご当地の焼き物を見に行きこれを買うという勝手な目標をたて，それから焼き物買いが始まった。

陶磁器の買い物は創った作家ご本人と直接会話が出来る悦びが大きい。足立区に住んでいた平成10年頃は，常磐道を利用し益子や笠間に通ったものだ。行けば作家さんとおしゃべりをして器を頒けて貰って帰ってくる。

17年前の会津高校の熱中症事件で福島に毎月通うようになってからは，行く度に会津・本郷焼の17窯元巡りになった。家族経営の窯元はそれぞれに工夫したもてなしをしてくれるので楽しみな訪問だった。「おじちゃん，山はネ，青から白になるんだよ！」と教えてくれたのは岱玄窯の幼稚園に通うお孫さんだった。

左：久保田さん作 花器　右：相馬さん作 花生け

旅先の窯元巡りで一番の遠隔地は球磨川の人吉盆地に窯を構える久保田さんの鳥ヶ丘窯である。鹿児島県伊集院町の熱中症死亡事故の示談交渉成立の日に，記念に高さ50cmほどの楕円形の青白磁の花器を頒けて頂いた。作品の横に波打つやわらかな曲線は僧の衣の襞（ひだ）の模様であるとのことだ。これが我が家で一番の大きな花器である。

他方，同じ青白磁でも，友部（笠間の隣）の相馬さんの作品は縦のラインである。写真（左下右側）は相馬さんの花生けで，この作品に魅せられ購入した際，店の人に「相馬さんの作品は英国の王立美術館も購入されたのですよ。」との説明を受け，その日の内に自宅を訪ね，湯呑み茶碗を頒けて頂いた。

相馬さんの作品はその後コーヒーカップなど次々と買う流れになった。

今，当事務所でお客さんに出すコーヒーのカップは相馬さんの作品である。

そんな陶器集めも自宅に溢れ事務所に溢れて，今では“オシマイ”である。